

平成28年度第3回豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校統合検討委員会

日 時	平成28年10月25日(火) 午後6時30分から午後8時16分まで
場 所	豊明市役所 東館1階 会議室4・5
出席者	小川雄二委員長、三冶金行副委員長、三谷聖也委員、浅野薫史委員、岸洋行委員、近藤木卯治委員、屋良桂子委員、丸尾敬吾委員、原田義英委員、伊藤昌司郎委員
欠席者	なし
事務局	市長、副市長、教育長、教育部長、学校支援室長 行政経営部長、とよあけ創生推進室
傍聴の可否	可
傍聴の有無	有(6名)
議 題	1 唐竹小学校及び双峰小学校意見交換会での意見について 2 豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校『統合イメージ』について
そ の 他	統合検討委員会の今後のスケジュール案について

議 事 録 (要旨)

I 委員長あいさつ

委員会も第3回目になり、核心部分に差し掛かってくるのではないのでしょうか。今回、統合イメージの説明もありますので、委員の皆さんからの意見、提案、質問を積極的にしていただいて、子どもたちを一番に考えたしかるべき結論により近づくような議論をしたいと思います。よろしくお願いいたします。

II 市長あいさつ

8月の統合検討委員会後、双峰小、唐竹小の保護者と意見交換会の中で、統合するしないを判断するにあたり、統合イメージができないと意見ができない、と言われました。

今回、議題の2つめが統合イメージの検討となっております。いろいろな意見をいただき、青写真を固め、再度保護者の皆さんと意見交換をしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

III 議題

1 唐竹小学校及び双峰小学校意見交換会での意見について

(事務局説明)

小川委員長 委員の皆さん、報告に関していかがでしょうか。

委 員 通学が遠くなることや環境が変わることによる生徒や保護者の

心配などがあるようですが、統合される元の学校の先生が半分いれば、つながりの深い子どもたちは少しでも安心できるのではないかと思います。ソフト面のことになりますが、そういうことも踏まえた質問だと思いますので、意見とさせていただきます。

小川委員長 学校統合の場合、教員配置の配慮はあるのでしょうか。あるいは、そういったことができるのでしょうか。

委 員 まったく新しい環境に入ることは子どもたちにとって決して良いことではないので、配慮をすれば半々の配置、少なくとも児童の比率にあわせて先生を配置し、学校をスタートさせていくことが一番良いと思います。

よく知った先生がいるのは、子どもの安心感につながりますので、大事なことだと思います。

学校支援室長 人事に関して、近隣教育委員会管内での話し合いで決めるので、そういったことは必ず考慮いたします。

委 員 双峰小学校意見交換会の質問で、双峰小が唐竹小に統合される場合もあるとのことですが、本当にありますか。

市 長 まだ、検討委員会でも議論されていない状態であり、検討していない以上、答えは出せないというかたちで、回答しております。

小川委員長 通学時間についての質問がありますが、双峰小、唐竹小は通学時間が短い、つまり校区が狭いと考えてよろしいのでしょうか。

そして、統合しても、他の校区に比べると、通学時間が長くはないと考えてよろしいのでしょうか。

事 務 局 試算したところ、双峰小に統合になった場合でも、唐竹小に統合になった場合でも、2キロまではありません。

その他の小学校では、沓掛小の一番遠い地区は3.2キロで、朝はひまわりバスを使って登校しています。また、中央小や沓掛小の他の地区でも、2キロを超えているところがあります。

双峰小、唐竹小の児童は、現状に比べると、距離が遠くなった朝も早く集まる必要があるなどのデメリットになるのですが、市内の小学校の中では、それほど遠い距離ではないと思われます。

市 長 補足ですが、保護者の方からすると、今までより10分ほどさらに時間がかかるようになる、学校が遠くなる、と思われる方もいます。

統合するという方向になった場合、一部の地域は学校区の再編

も議論する必要が生じてくると思っております。それは保護者の皆さんにも説明しております。

2 豊明市立双峰小学校及び唐竹小学校『統合イメージ』について

(事務局説明)

小川委員長 統合する小学校の基本コンセプトについて、いかがでしょうか。
統合することになった場合、学校名などをどうするかなどを、統合検討委員会で提示され検討することになりますか。

事務局 まずは、統合のイメージを作って、どんなハード整備が必要で、どんな教室が必要かということをいろいろ挙げていき、双峰小なら、唐竹小なら、とのイメージの具体的な案をご提示させていただきます。

その中で、現実的にどうかということなどを、委員の皆様で議論いただいて、方向性を出していただきたいと思っています。

小川委員長 基本コンセプトは、こういった形のイメージ、といったところからスタートしていくということによろしいですね。

では、児童数とクラス数について、数字の見方とかどうでしょうか。

委員 唐竹小と双峰小が統合した場合、1クラスの人数が多くなる可能性が非常に高くなります。

行き届いた教育を考えた場合、クラス人数が37、8人いると、様々な児童の対応をするのは大変ではないかと心配しております。

資料では、児童数とクラス数の数字だけあがっており、統合した場合の各学級のクラス人数が、示されていません。

市長 双峰小、唐竹小校区の特徴として、豊明団地だけではなく、賃貸の集合住宅が多いため、人口流出が非常に多いという特徴があります。

資料は、今現在の対象児童数を単純に合算したものですが、対象児童が増えると、クラス数が増え、逆に少人数になる可能性もあり、実際にクラス人数が何人になるかは、分からないわけです。

委員 これまでの入学した児童数の推移をみると、唐竹小は30人前後、双峰小も40人前後です。児童数はこのようになると予想するのですが。

教育長 人口は変わるため、子どもが増減することにより、クラス数も変わってきますので、重要視する必要はないと思います。

小川委員長 市長、教育長の言うとおりに、将来的な人口がどうなるか分かり

ませんので、今回の数字は参考と受け取らせていただきます。

委員 現在1クラス30数名ですが、統合してから数年間は、1、2年生だけでなく、市で教員を雇い6年生まで35人学級を続けることはできませんか。

統合直後の子どもはナイーブになると思いますので、多くの目で見守れば、子どもたちにとっては有利になると思います。

教育長 意見交換会でも聞かれましたが、難しいと思います。他の学校とのバランスを取らなければいけないと教育委員会としては考えますので、そうなる、相当な費用が必要になることは自明です。

ですから、教員補助というかたちで、最大で8名配置して、実質的には少人数の授業ができる、チームティーチングができるような形にして、少人数学級に近いような環境が提供できないかと考えています。

委員 教員補助が増えることは素晴らしいことですが、教員補助は授業補助であり、授業に関しては充実しますが、学級運営についても補助できるように、教員補助の役割を広げていただくことはできませんか。

委員 実際にそのようなことはありますので、非常勤として学級運営の補助をするのは問題ありません。ただし、県の職員ではないので、単独で授業をすることはできません。

小川委員長 ある程度対応は可能だと、理解しました。それなりに充実する可能性があると考えられることができるようです。

委員 市の非常勤職員の配置ですが、配置する意図をもう少し説明しないと分かりにくいです。

子どもたちにこんな子になってほしい、生き生きと学ぶ子になってほしいための教員補助、コミュニケーションがうまくできなくて、人とうまく関われない子のための養護教諭、というような意図を、もう少し明確にしていったほうがよいと思います。

正規の職員は学校編成基準に定められた全国统一された基準なので、増やすことはできませんが、豊明市が、特色あるモデル校として行っていくのであれば、案1の中身を、もう少し丁寧に書いていったほうが良いと思います。

現在、子ども同士でコミュニケーションが取れずトラブルになることが多く、どのように他の子と関わったらいいかわからないため、子どもも親も悩むということがあり、県からスクールカウ

ンセラーを配置していますが、市単独でスクールカウンセラーを加配することが可能かどうか、検討していくことも必要かと思われました。

学童保育と放課後子ども教室は、統合して人数が増えたとしても対応できるように、施設とか指導員の体制は、維持されますよね。子どもたちも大事ですが、働く親のフォローアップも入れていけるといいと思いますので、検討していただければと思います。

教育部長　いま提案いただいた件について、市単独で現在、スクールソーシャルワーカーを2名、スクールカウンセラーについても置いております。今回例示として教員補助や特別支援員、養護教諭などいろいろな項目表示をさせていただきましたが、皆さんの議論の中で、そういう方も必要であるということであれば、十分設置は可能であると考えております。

放課後子ども教室と児童クラブについて、現在双峰小でも唐竹小でも実施をしております。統合があった場合でも、両校の子どもたちを合算した人数にも対応できると考えております。

小川委員長　次回、統合イメージを提示するときは、そのことを加えていただくと保護者の皆様も、安心できるということになるかもしれません。

統合イメージについて、別紙のほうでいくつかの案を出していただいております。

今は案1に基づいたご意見でしたが、案2、案3のほうでは、例えば、ALTを配置するという教育熱心な保護者に対しては非常に魅力的な提案がなされておりますが、いかがでしょうか。

案1が資料のほうには載っておりますけれども、案2、案3、もしくは案4をご提案いただいてもよいかと思いますが、せっかく案2、案3が提案されておりますので、この案が魅力的なのかどうか、ご意見を頂戴したいと思います。

委員　委員長がおっしゃった、案2、案3に対するものではないですが、子どもたちが輝ける学校に、というところが共通していると思うのですが、先生方の負担が多すぎると、どうしても教育の質が落ちてしまうというところがあると思います。

そういったときに学習だけでなく、教室運営とか学級運営というところに対する補助も必要だと思えます。

世界的に見て、日本の学校の先生は、書類に膨大な時間を割い

ているという現状があり、事務作業の負担割合は、相当高いと言われております。

例えば、学校事務職員の増配というところで、先生方の負担を軽減していく方向性があるかもしれないということ、また学校が統合することになると、膨大な事務作業が、今以上に出てくるため、ここが補助されると、先生方が本業に専念することができるようになるのではないかと考え、学校事務職員の増配を提案させていただきました。

小川委員長 資料は、教育に関わる教員配置についてですけれども、学校事務職員に関しては当然のご指摘だと思いますので、そこについても統合のイメージの中で、今回の案にお示しいただけたらと思います。

再度案2案3についてご意見ございますでしょうか。

私などは、ALTが2人配置されたら、大変魅力的だと見せていただきました。外国人に接すると怖くて近づけないのですが、子どもたちから接していれば、そのようなこともなくなると考えるとなかなか魅力的な案で、メリットが活かせると思います。委員の皆さんいかがでしょうか。小学校のALTの配置は現在どんな感じになっているか、ご説明をお願いします。

学校支援室長 5、6年生は1週間に1時間、外国語活動となっており、1～4年生までは、ALTの先生に余裕が出てきたところで、クラスに入って英語を教えていただくという状況です。

ただ、5、6年生は、授業時間数がほぼいっぱい、さらにALTを入れるのは、授業時間数的には難しいと思っています。

もし入るならば、1～4年生の、少し時間に余裕のある学年のところへALTの先生が入るのは、英語に関心を持たせる上では有意義ではあるかなというところではあります。

ただし2年生からも、かなり授業時間数が入っていますので、ALTを入れることは苦しい点もあるかと、思っているところです。

小川委員長 もう1点確認ですが、現在双峰小唐竹小にもALTはいるという話だったのですが、資料では0になっているのですが、どうでしょうか。

学校支援室長 ALTの先生は全9小学校で5名います。一人の先生が3校を掛け持ちしている状況をイメージしていただければよいので、0

というわけではないです。

委員 両校を統合すると、確実に県職員の先生が減りますが、教員補助の先生というのは、どのような位置づけなのでしょう。

教員補助について、保護者の方はよく知らないと思います。これができるあができないとか、例えば、子どもがいじめられたと、その子どもは教員補助の先生をすごい慕っていて、その先生と保護者がお話することが可能なとか、どうでしょうか。

小川委員長 教員補助について、その仕事をはっきりさせて提示をすることは必要だと思います。

学校支援室長 教員補助は、教員の免許を取得しているので、授業をすることは可能です。

したがって先ほど説明があったように、チームティーチングをすることもできるし、クラスを二つに分けることも可能になるので、授業に関わることができます。

いじめの相談について触れられましたが、一人の先生として、学校の教育の現場においては、問題があれば生徒指導面でも関わっていく場も絶対にあると思います。保護者から信頼されて、相談を申し込まれれば、勤務時間は考えなければいけないのですが、調整をすれば保護者の期待に応えることができるし、もちろん子どもの期待にも応えることが可能であります。

小川委員長 今のことも含めて、市で独自に配置する教員補助等の位置付け、仕事の内容、勤務日、勤務時間なども含めた統合イメージの第2案を作ると、よりイメージがはっきりとし判断しやすくなるのではないかと思います。

委員 教員補助の仕事について、できる範囲を教員補助の人にもしっかりと伝えていただきたいと思います。

本校の教員補助の先生は、授業や教員の補助をしっかりとやってくださる。相談などは今までなく、また概ね午後3時に帰られるため、保護者が相談に来るときにはほぼいないので、難しいかと思っています。

時間の規定とか仕事の内容とかも、検討していただけるとありがたいと思います。

小川委員長 今回の資料は、数を提示していただいているだけですが、より詳しい仕事の内容、勤務時間、勤務日などを入れ込んだ、第2の統合イメージを作っていただき、次回あるいは保護者にご説明す

るときに、理解を得やすいと思いました。

教員配置に合わせて、授業内容であるチームティーチング、習熟度少人数学級そしてIT、イングリッシュエリアなどの充実を考えていただいています。ご意見いかがでしょうか。

また、別紙の裏側に、より具体的にイメージが描かれています。このあたりも、いかがでしょうか。分かりやすいでしょうか。あるいは判断の材料として有効でしょうか。

現状の教員補助に関しては、双峰小は、4、5、6年に、唐竹小は3、5、6年に入っていますが、それが6人または8人配置となると、全学年にそれなりに手厚く入っていただくことができる、そのように考えてよろしでしょうか。

委員 双峰小は算数に力を入れて、唐竹小はいろいろな教科をしています。

県からも少人数指導の先生が来ていますので、少人数学級を行えますし、教務主任、校務主任も少人数の指導に入ってもらったり、授業をしたりということで、本校はいろいろなパターン行いたいため、ある程度学校の自由を認めていただいたほうが、学校としてはありがたいです。

市長 学校長の裁量でうまく学校運営してもらえばいいと考えております。

学校支援室長 別紙の裏面について少し補足します。

現在、双峰小、唐竹小は教員補助がそれぞれ1名とあり、時間というかコマ数という考え方でいくと、だいたい1週間で20コマぐらい入りますので、学校で有効に活用していただければいいと思います。

小川委員長 6人なら120コマ、8人なら160コマ、教科に配置できるというわけですね。

委員 教員補助について、現状としての話を付け加えさせていただきます。

双峰小が国語を行わない理由は、この時間に外国人児童に日本語を指導しており、違うクラスの子達を集めるため、学年で同じ教科を入れなければならないということです。

教員補助は1人のため、クラスをいったりきたりすることになってしまい、非常にやりにくいということがあったので、国語は行っていないというのが双峰小の現状です。

小川委員長 そのことも含めて、学校が統合した場合には、校長の裁量の中で、120コマなり160コマなりを有効に活用していただいでよりよい教育を図っていただくということですね。何の教科をしているから良い悪いではなく、そのときの学校の状況にあわせてベストな配置をすれば良い、ということをご了解をいたしました。

IT学習の部分はいかがでしょう。現在両校にある物をすべて使えるのか、市全体で再配分するのか、どちらでしょうか。

教 育 長 今のところ、両校のものはそのまま統合後に使っていただこうと思っています。

小川委員長 それはかなり効率的に使えると考えてよいということですね。IT機器に関しては、減ることはないということですから、効率的に使える分だけ、多少良いかもしれません。

イングリッシュエリアという案が出ておりますが、これはALTを配置したら、可能になるという意味で理解してよろしいですね。

教 育 長 2020年に教育課程が変更になって、小学校でも英語に取り組むということが、今示されておりますが、現在のカリキュラムの中に、英語を増やしていくのは至難の業だといわれております。

例えば、低学年で行うとか、気軽に英語に触れ合いたいと思った子どもたちが放課時に訪れる、というふうでもいかなど、事務局の中では考えておまして、必ずしも、授業だけでALTを使うのではなく、遊びの中や放課中に使えれば、かなり親近感を持つようになるのではないかと、という提案です。

小川委員長 そういったことができるかもしれないと、そういうことですね。

定住外国人向け初期日本語教室ですが、これは現在は実施していないことを、今後実施することができる、というふうに考えてよろしいですか。

教 育 長 これも現在実施しております。プラスエデュケートという団体が、豊明団地の中の空き店舗、最大20人ぐらいしか入れない教室でっております。

本当は、半年間の日本語の教育活動ができることになっているのですけれども、初期指導が必要な子どもが定員を上回っておりますので、半年間ではなく、3ヶ月で入れ替えています。

そのような状況を解決するには、統合されたときに、学校内に教室を設置し、広々した場所で、NPO法人の人数も増やしてい

ただきながら対応すれば、かなりの効果があるのではないかと、そういった提案ということであります。

小川委員長 現状よりも充実させることにより、外国人児童に配慮ができるということですね。

教 育 長 市内の全ての日本語学習が困難な子どもたちがここに通うことになります。そのため、タクシーを利用する子もいます。タクシー代は国のお金で今年度は賄われることになっております。

この教室が学校内にできれば、しかも非常に外国籍の子どもたちが多く双峰小、唐竹小学校学区内に設置することができれば、かなり充実するのではないかと考えております。

小川委員長 そこは充実したほうが望ましいと考えてよろしいでしょうか。
委 員 学校内にあったほうがよいと思います。

小川委員長 そういったところも配慮された整備と受け取らせていただきました。

そして部活動についても記述をいただいております。

委 員 部活動について指導員が派遣されるということはあるのですが、以前中学校のサッカー部の指導員の方が、勝つことを第一主義にして、しっかりやらない子は見捨てたり、生活指導をしないという指導方法でした。その後、サッカー部を立て直すのに、大変苦労したという思いがありました。

部活動の主体は教員であり、技術指導とか援助という形で、来ていただくのであればありがたいです。

教 育 長 あくまで、学校教育の中の部活ですので、教員が主体であり、指導員は教員の負担を減らしてもらうという考えです。

小川委員長 ハード面の整備についてはいかがでしょうか。これはこのように整備してはどうかとか、これはいらぬとか、そういうことはありますでしょうか。

委 員 トイレはどういった種類のトイレが設置されますか。

現代の子どもは和式を使ったことがないため、そんなことで学校生活に躓いてしまうことがあります。

教 育 部 長 トイレの改修の話ですが、1年生が和式を使ったことがないため、トイレができなくなってしまうという話も伺っています。

トイレの洋式化は、順次進めており、現在40%は確保しております。まだ不十分であることは十分承知をしております。さらに小学校低学年の子どもたちを中心に、トイレを整備したいと考

えております。

委員 通学路の防犯等やカラーペイントは、通常区長要望工事で対応されてますが、今回はどのように進めていくのですか。

副市長 おっしゃるとおり、通常の場合ですと区長要望工事で対応させてもらっています。

今回、統合により新たな通学路が発生した場合、行政で必要な処置はしていきたいと考えております。

小川委員長 今回、事務局の統合イメージをたたき台に、委員としていろいろ意見を述べましたけれど、ぜひ受け止めていただき、統合イメージをより豊かにしていただいて、次回にまたご提示いただければと思っております。

IV その他

統合検討委員会の今後のスケジュール案について

(事務局説明)

小川委員長 いかがでしょうか。

委員 双峰小学校の意見交換会のアンケートについての質問の回答が、年内にアンケート実施とありますが、実施時期がずれているようです。回答は慎重にお願いしたいと思います。

事務局 次回の意見交換会で、実施時期がずれてしまったことのお詫びと、このスケジュール案をお示しします。

小川委員長 スケジュールはあくまで案ですので、時期が延びたりするということもあるということですね。

事務局 意見交換会の中でも時期が分からないことに不安を持つ方もおり、また、ある程度のゴール時期を知りたいという意見もありましたので、年度内は難しいのですが、できるかぎり、あまり先延ばししないようにしました。

小川委員長 このスケジュール案を目安に、引き続き委員会を開催してまいりたいと思います。

この統合検討委員会は、地域の方も保護者の皆さんも、小学校の教育を考える非常に貴重な機会だと思います。意見交換会やアンケートをすること、また、統合を検討することを通して、保護者や地域の意識が高まれば大きな財産になるかと思っておりますので、議論の過程を大事にすることはとても素晴らしいことだと感じました。

(次回開催についての連絡)